

# 水都メモリーズ



船からの眺めと  
光り溢れる中之島は、  
忘れられない  
水都の思い出です。

レポーター：大島 品子さん

中之島公園東端から眺める天満橋・八軒家浜のライトアップ風景

## 旧くて新しい“水上の都心”を訪ねて

古くから水とともに栄えてきた大阪の水運を支える中之島エリア。船着き場の整備や橋のライトアップなど川や水辺の賑わいを取り戻すさまざまな取り組みも進行中です。中でも新しく生まれ変わった中之島公園一帯で開かれた「水都大阪2009」は、水辺の美しさ、楽しさを再発見できる催しとして注目を集めました。水都のシンボル「中之島」の魅力を生かして、船から陸から立体的にレポートします。



### 中之島界隈レトロ建築

中之島周辺には、明治時代から昭和初期にかけて建てられた由緒ある名建築が点在しています。その一部をご紹介します。



**A** 府立中之島図書館(1904)  
住友家の寄付により建てられ、百年以上もたつ現在も公立図書館として使用されている貴重な建築物です。



**B** 大阪市中央公会堂(1918)  
株で財を成した岩本栄之助の寄付により、当時では珍しい設計コンペを経て建てられた。水都大阪のシンボルともいえる赤レンガが美しい建物です。



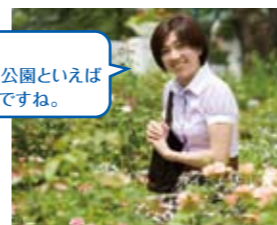
**C** 旧大林組本店ビル(1926)  
当時アメリカで流行していたスパニッシュスタイルを取り入れた近代建築。平成19年に耐震補強工事が行われ、高級フレンチレストランなどが入っています。



淀屋橋から大川クルーズに出発します。



130人が乗れる水上バス「アクアライナー」



やはり中之島公園といえばバラ園ですね。



難波橋からは美しい中之島公園が一望できます。



市庁舎前の遊歩道



左手に中央公会堂を眺めながら航行中

「川の駅・はちけんや」外観

## 水上バスから眺める パノラマビューに感激。

大阪の都心部をぐるりと取り囲むのは世界でも珍しい「水の回廊」。まずは水上バス「アクアライナー」でその一部を体験してみました。淀屋橋から乗り込んだ船は左手に市庁舎、府立図書館、中央公会堂を望みながら土佐堀川を進み、大川を北上していきます。天神橋、天満橋をくぐりぬけ造幣局を過ぎ、桜の宮の手前でUターン後、桜の宮公園を見ながら第二寝屋川へ。大阪城の雄姿を眺めながら再び大川に戻り、八軒家浜の船着き場まで約50分間、川の両岸に広がるパノラマビューに大感激のクルーズ体験でした。下船した八軒家浜は、かつて大阪と京都を往来した三十石船の船着き場として栄え、2008年春に水陸交通ターミナルとして誕生したばかり。川沿いの遊歩道を少し歩くと、川の歴史と賑わいを楽しめる施設「川の駅・はちけんや」が見えてきます。レストランや観光船案内所もある開放的な空間です。さらに西へ進むと天神橋はもう目の前。らせん状の階段を下りていくとそこは緑あふれる中之島公園です。

## 生まれ変わった花と緑あふれる 都心のオアシス。

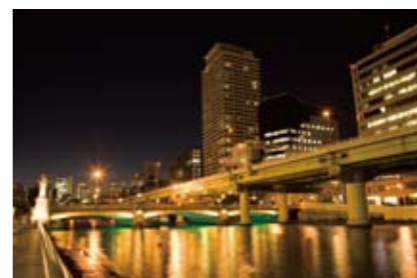
バラ園で知られる中之島公園は、大阪市民の憩いのスペースとして長年親しまれてきました。リニューアル工事のため一時閉鎖されていましたが、8月に全面オープン。東洋陶磁美術館や中央公会堂まで川沿いに散策が楽しめるプロムナード「中之島水辺径」やバラと水辺を望む「バラのカフェレストラン」なども加わり、人と自然が共生する空間として人気が高まりそうです。

## 幻想的な光の空間に言葉を失う 水辺のライトアップ。

夜の中之島公園は、昼間と違うもう一つの顔に出会えます。それは水辺のライトアップ風景。私が訪れた8月は、「水都大阪2009」開催期間中ということもあり、天神橋や難波橋が光のアートで彩られ、川面に浮かぶ揺らめきが幻想的な景観を作り出していました。噴水の向こうに見える八軒家浜の輝きは宝石のよう。私が知らない大阪の風景がそこにありました。



川面にきらめく光が幻想的な橋のライトアップ風景(写真左から水晶橋、難波橋、天神橋)



協力：大阪水上バス株式会社